

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	RENOX コールドディグリーザ
会社名	株式会社創新
住所	東京都豊島区上池袋4-11-16ノックストールビル3階
電話番号	03-3918-3100
Fax.番号	03-3918-3511
推奨用途および使用上の制限	脱グリース剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2B
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用)
	吸引呼吸器有害性	区分1
環境に対する有害性	GHS分類に該当する項目はない	

シンボル

注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性液体および蒸気
眼刺激
眠気またはめまいのおそれ
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

- | | |
|------|--|
| 安全対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の手の届かないところに置くこと。 ・熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。 ・容器を密閉しておくこと。 ・容器を接地しアースを取ること。 ・防爆型の電気/換気/照明等機器を使用すること。 ・火花を発生させない工具を使用すること。 ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。 ・取扱い後は手、顔をよく洗うこと。 ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 |
| 応急措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚または髪に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。 ・火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。 ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ・眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。 ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ・気分が悪い時は医師に連絡すること。 ・飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。 |
| 保管 | <ul style="list-style-type: none"> ・無理に吐かせないこと。 ・換気の良い涼しいところに場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 ・施錠して保管すること |

廃棄 ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

3. 組織・成分情報

化学名または一般名	濃度 (%)	CAS番号	化審法 公示番号	安衛法(閾値)		PRTR法	毒劇法
				表示	通知		
水素処理重質石油ナフサ ^{*1}	>95%	64742-48-9	9-1689	≥1% ^{*2}	≥1%	非該当	非該当
ポリオキエチレノレアルミン	<1%	26635-93-8	7-60	非該当	非該当	非該当	非該当
ジプロピレングリコールモノ/ジアルエーテル	<1%	34590-94-8	2-426	非該当 ^{*3}	非該当 ^{*3}	非該当	非該当

*1 :ベンゼン含有率 <0.1%、 *2 2016年6月1日改正安衛法施行後対象 *3 閾値未満のため非該当

4. 応急措置

吸入した場合 新鮮な空気の場所に移し、休息させる。

皮膚に付着した場合 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ、または取り除く。
皮膚を石鹸と多量の流水またはシャワーで洗う。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は医師の診察/手当てを受ける。

眼に入った場合 水で15分間注意深く洗う。その際、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 水で口の中をよくすすぐ。
気分が悪いときは、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤 粉末消火剤、散水、泡消火剤、二酸化炭素消火剤

使ってはならない消火剤 棒状注水

特有の危険有害性 火災によってCO₂、CO等の有害性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法 消火作業は可能な限り風上から行う。
加熱は空気と爆発性混合気を形成する可燃性蒸気の形成を導きます。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用する。

保護具および緊急措置

環境に対する注意事項 流出した製品の河川、水路、下水溝などへの流出を防止する。

回収・中和 適切な不活性吸収剤で吸着或はスコップ等ですくい取り適切な容器に回収する。

封じ込め及び浄化方法・機材 適応される規制に従って廃棄する。

二次災害の防止策 漏出物でのスリップに注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱い注意事項 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の適切な保護具を着用する。
機械換気又は局所換気を推奨します。
スパーク源(喫煙、炎、静電気等)を避け、下記または着火源の近くで使用しない。
容器を入れ替える場合など必ずアースをとること。
取扱い後は手、顔をよく洗うこと。

保管

保管条件 着火源から距離を置いて、オリジナル容器に密閉して、換気の良い場所に保管すること。

容器包装材料 オリジナル容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 (作業環境評価基準)	未設定		
許容濃度		日本産業衛生学会 未設定	ACGIH(TWA) 未設定
保護具	呼吸器の保護具	換気が不十分な場合は、有機ガスマスクを着用する。	
	手の保護具	ニトリルゴム或はポリビニルアルコール製の適切な保護手袋を使用する。	
	眼の保護具	タイトなフィッティングの保護眼鏡あるいは保護ゴーグルを着用する。	
	皮膚及び身体の保護具	必要なら適切な長袖保護服を着用する。	
衛生対策		休憩前、作業終了時に手を洗う。眼、皮膚への接触を防ぐ。緊急シャワーと洗眼設備を作業場所に設置し利用できるようにする。	

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	無色透明液体
臭い	特異臭
融点・凝固点	<-20°C
沸点、沸騰範囲	145-200°C
引火点	~40°C
爆発範囲	0.6~7.0%
蒸気圧	300 Pa (20°C)
比重(密度)	~790kg/m ³
溶解度	
水	混和性
有機溶剤	有機溶媒に溶解
自然発火点	~250°C
n-オクタノール/水分係数	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
安定性	通常の取扱いでは安定。
危険有害反応可能性	危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	加熱、着火源
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	通常の条件下で予想される危険有害な分解生成物はない。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	水素処理重質石油ナフサ ラット LD50 >2000mg/kg
経皮	水素処理重質石油ナフサ ウサギ LD50 >2000mg/kg
吸入	水素処理重質石油ナフサ ラット LC50 >5000mg/m ³ /4h
潜在的な急性影響	
吸入	めまい、疲労感、頭痛や不快感等の症状を引き起こすことがあります。高濃度のばく露をすると、混乱と無意識の状態を引き起こす可能性があります。
皮膚接触	皮膚のひび割れや皮膚炎症を引き起こす可能性があります。
眼への接触	刺すような刺激を起すことがある。
飲み込んだ場合	嘔吐を起すことがあります。化学品を含む嘔吐物が肺に入ると、化学性肺炎を起すことがあります。
発がん性、変異原性又は生殖毒性	発がん性、生殖毒性、変異原性に関する情報はない。

12. 環境影響情報

生態毒性	水生生物に対して毒性は低いです。局地的な排出はリスクを引き起こす可能性
------	-------------------------------------

魚類急性毒性	があります。
藻類急性毒性	水素処理重質石油ナフサ : LC50 >100mg/L/96h
ミジンコ急性毒性	水素処理重質石油ナフサ : EC50 >100mg/L/72h
残留性・分解性	水素処理重質石油ナフサ : EC50 >100mg/L/48h
生体蓄積性	比較的天然の微生物に易分解性である。
土壤中の移動性	Log Pow ₂₋₇ は生物蓄積性の低い潜在性が推定されます。 水に不溶である。

13. 廃棄上の注意**残余廃棄物**

廃棄の際は、関連法規ならびに地方自治体の規準に従う。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体が
その処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は関連法規ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意**国際規制**

海上規制情報 : IMOの規定に従う。

UN No. : 1300

Proper Shipping Name : TURPENTINE SUBSTITUTE

Class : 3-

Packing Group : III

海上規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。

UN No. : 1300

Proper Shipping Name : TURPENTINE SUBSTITUTE

Class : 3-

Packing Group : III

国内規制

陸上輸送情報 : 消防法に従う。

海上輸送情報 : 船舶安全法に従う。(IMOに準拠)

航空輸送情報 : 航空法に従う。(ICAOに準拠)

特別安全対策

転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

直射日光を避けて輸送する。

緊急時応急措置指針番号

128

15. 適用法令

化審法	特段規制なし
安衛法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 : 石油ナフサ 第3種有機溶剤 ; 石油ナフサ
化管法(PRTR法)	非該当
消防法	危険物 第4類 第2石油類 非水溶性 危険等級 III

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。このSDSは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。